

[普及の現場から]

「イネWCS給与の和牛が好成績でした」

真庭農業普及指導センター

1. はじめに

落合農業後継者クラブでは、平成20年から、会員の水稻栽培農家と和牛肥育農家が中心となり、イネWCS生産と和牛肥育牛への給与実証に取り組みました。

平成22年に実証牛の肥育が終了し、成績が判明したので、成果について報告します。

2. 実証の経緯

今回成績が出た実証牛9頭には、肥育開始の平成20年11月から5ヶ月間、イネWCSを給与し(表1)、およそ20ヶ月後の平成22年6月以降に肥育が完了しました。

また、枝肉の肉質を左右するビタミンAの血中濃度は、給与終了直後の13ヶ月令前後と、最も低いと考えられる20ヶ月令前後の2回調査しました。給与するWCSのビタミン濃度も調査しています。

(表1) 実証牛の飼料給与状況(肥育前期)

年 月		H20.11	H20.12	H21.1	H21.2	H21.3	H21.4
月 齢		8ヶ月令	9ヶ月令	10ヶ月令	11ヶ月令	12ヶ月令	13ヶ月令
給 与	イネWCS	8.0	8.0	7.0	7.0	4.0	
	夢作前期	4.4	4.8	5.6	6.0	6.4	4.4
	夢作後期						3.2
	大豆粕	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
	ワラ	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5
	杓小口	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0

3. 実証成果

実証牛の枝肉成績の平均値はBMSNoで8.12、枝肉重量462.2kgであり、県下の和牛枝肉成績と比較すると大変好成績であり、実証農家の過去3年の平均値をも上回っていました(表2)。

(表2) 肉質・枝肉重量の結果

区 分	BMSNo	枝肉重量(kg)
WCS給与牛の平均	8.12	462.2
新極牧場の平均(過去3年134頭)	7.23	454.7
岡山県の平均(過去3年5474頭)	5.71	463.5

また、6月23日には、全農岡山県本部主催の第9回枝肉共励会に実証牛2頭を出品。クラブ員や真庭の関係機関も見学している中で、内1頭がみごと最優秀賞を受賞しました(BMSNo9、枝肉重量489.2kg)。

その翌月には、関係機関を集めて、最優秀賞を受賞した枝肉の試食会を開催しました。食味アンケートも行い、「香りが良く、非常にやわらかくておいしい。」と好評でした(図-1)。

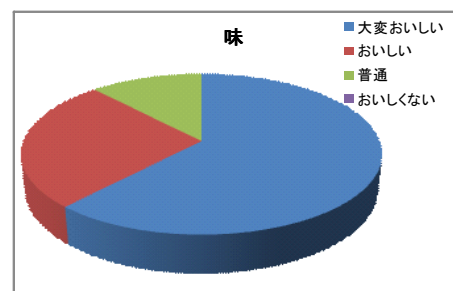


出品枝肉を見学する参加者



試食会の様子

(図-1) 食味アンケート結果(一部)



気になる、ビタミンAですが、WCS中の濃度は乳熟期が300IU代、黄熟期が200IU代、完熟期が100IU代で刈り取り熟期が進むにつれ下がっていました。

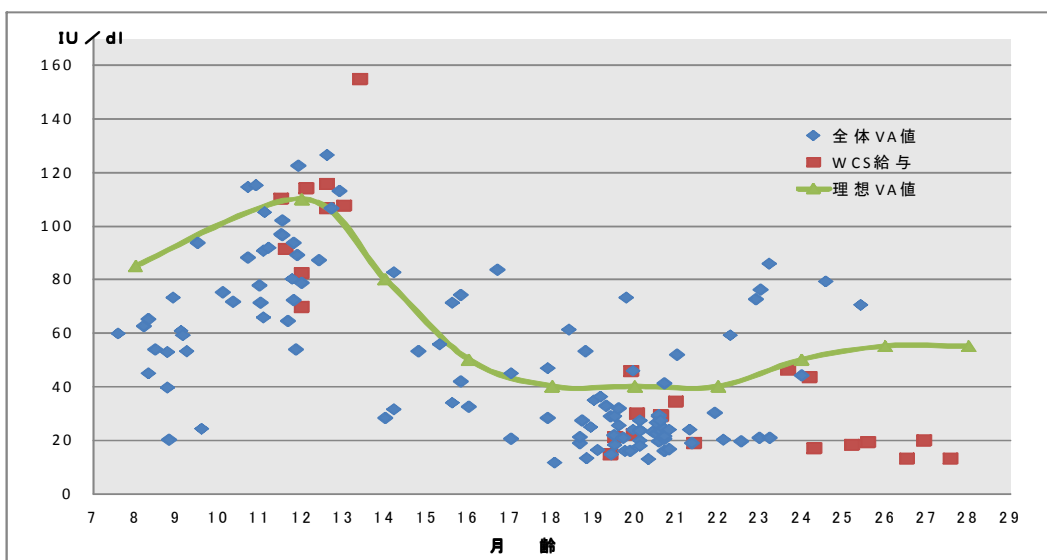
血中のビタミンA濃度については給与直後は高い牛もいましたが、20ヶ月令前後には理想的に低下しており（図-2）、コレステロール値の推移（図-3）から、採食量も落ちていないと考えられます。枝肉成績も好調なわけです。また、脂肪交雑の規格だけでなく、イネWCSを給与した牛はロース芯の周囲の筋肉が良く発達し、それらの肉質も良いものが多いようです。ただし、脂肪の色については少し濃くなる傾向がありました。

4 今後の取り組み

イネWCSについては、ビタミンEが多く含まれることから、肥育の後期に給与することで肉の酸化防止効果が期待されており、それについての実証にも取り組む計画です。

また、WCSは運搬効率が悪いという課題もあり、運搬しやすい飼料米の利用についても検討しています。

（図-2）ビタミンA測定値



（図-3）コレステロール測定値

